

兵庫県・広東省 友好提携35周年記念事業

12月16日(土)～20日(火)の5日間にわたり、県民交流団16名が広東省を訪問しました。友好提携35周年を記念した今回の旅では、省政府主催記念レセプションに参加し、改めて両県省の35年間の交流の重みを感じるとともに今後の交流へ向けた新たな1ページを刻む瞬間を目にしました。

さらに、今回は隣に位置する福建省アモイも訪問しました。歴史の波を肌で感じる世界遺産や観光地を巡るとともに、子豚の丸焼きや素朴な郷土料理を楽しみました。和気あいあいとした暖かい雰囲気の中、訪問先の方々と、そして団員同士も交流を深めることができた素晴らしい旅となりました。



▲広東省主催の記念レセプション。緊張気味で参加した団員も、心のこもった内容に次第にリラックス。知事と一緒に記念撮影



▲世界遺産である永定高北土楼内で。土楼は北方異民族の侵入におされて南下した漢民族「客家」独自の集合住宅(福建省)



▲兵庫県にもゆかりのある孫文を記念して建てられた中山記念堂前にて(広州市)



▲団員から歓声が上がった子豚の丸焼き(福建省)



▲水墨画のような切り立った岩山が並ぶその姿から「小桂林」と呼ばれている肇慶(広東省)



多文化共生の窓

地域日本語教室の活動を考える機会として

県内で活動する約100の地域日本語教室は、外国人県民と地域社会をつなぐ場として大きな役割を担っています。その運営や活動を支えるみなさんとともに地域日本語教室のこれからを考える試みとして、昨年度、但馬地域で行った「リーダー養成講座」を今年度は西播磨地域で開催しました。また但馬地域では講座を経験したボランティアのみなさんが再び集まり、「フォローアップ講座」として漢字学習をテーマに日本語支援方法の新たな工夫に挑戦しました。

【地域日本語教室リーダー養成講座（西播磨地域）】



▲土井佳彦氏（NPO 法人多文化共生リソースセンター東海代表理事）を講師に迎え、教室の課題を探る

西播磨 4 市 3 町で活動する 8 教室に呼びかけ、これからの教室のあり方を共に考えることを目指した講座を開催しました。5月にスタートし、たつの市において合同研修を 4 回、各教室において個別研修を 3 回ずつ実施しました。

教室の活動に関わるボランティア・行政職員約 30 名が参加した合同研修では、それぞれの日本語教室の 5 年後を見据えて運営面の現状と課題を探り、他の教室と情報を共有することから始めました。学習支援方法については、ワークショップの後、教室ごとに普段の活動の中で実践、振り返りを行うことによりスキルアップを図りました。

最終回の 12 月 16 日（土）に行われた成果発表では、運営面での課題解決に向けた 8 ヶ月に渡る取組みの報告とともに、学習支援方法の工夫やアイデアが披露され、活発な質疑応答も行われました。



▲教室の枠を越え、ボランティア仲間として共に考える



▲教室の学習者のみなさんの協力で、講師によるデモレッスンも実施

【セーフティネットモデル・フォローアップ講座（但馬地域）】

10 月から 12 月にかけて、生活に役立つ漢字を楽しく継続的に学ぶことをサポートするための講座（全 3 回）を豊岡市で開催しました。地域で暮らす外国人が生活のための日本語を学ぶとき、まず、話すこと・聞くことからスタートして、読み書きは後回しになってしまうことがよくあります。そのため、「漢字がわからなくて恥ずかしい」、「字が読めないから一人で出かけられない」、「自分の住所が書けない」ということが起こります。文字を読む・書く力を身につければ、その人の生活が大きく変わる可能性があるのです。

講座では、2 回の研修を通して、漢字の中に隠れているカタカナや他の漢字を探すといった楽しく覚えるためのヒントや、身の回りにある漢字のことを写真に撮り、オリジナル教材である漢字学習シートを作る方法を学びました。

そこで得たものを一度教室に持ち帰り、目の前の学習者一人ひとりに合わせた支援方法を探りながら、実際の活動を行いました。その成果を、12 月の最終回で発表。約 20 名の受講者による実践報告会は、貴重な情報共有、意見交換の場となりました。



▲第 1、2 回は（特非）多文化共生センター大阪「『生活の漢字』をかんがえる会」と共催



▲それぞれが手作りの漢字学習シートを持ち寄って発表

「イザ! 美かえる大キャラバン! 2018」 連携イベント

「イザ! 美かえる大キャラバン!」へのブース出展 ～いろいろな国の言葉を使った体験をしよう!～

HAT神戸連携防災イベントとして9回目となる「イザ! 美かえる大キャラバン! 2018」が1月28日(日)にJICA関西及び人と防災未来センターで実施されました。阪神・淡路大震災を経験したこの地域だからこそ「大キャラバン」で、時折雪のちらつく寒い中、子ども達を中心に多くの方々に参加していただきました。

防災教育と国際交流をテーマにブースを出展したところ、時には行列になるほどの盛況ぶり。参加者は防災クイズや国旗クイズで楽しみながら学びました。

「スーパーマーケットにいる時に地震が起こったらどうする・・・?」「夏に地震が起こったらサンダルを履いて逃げてもいい・・・?」等の防災クイズに理由を考えながら答えることで、災害に対する意識を高める良い機会になったのではないかと思います。



▲年齢にあわせて、EU 旗作りや国旗クイズ、防災クイズなどを準備



▲兵庫県の姉妹州省はどこかな・・・?

【事前連携イベント】

～『ひょうご国際プラザ』で カエルをさがそう!～

1月15日(月)～26日(金)(土日除く)には、ひょうご国際プラザで事前連携イベントを実施。本の森からカエルをみつけてもらいつつ、かえるキャラバンの広報を行いました。



▲カエル探しを楽しんだ後は一緒に防災の本も読んでね

セミナー「わたしたちの難民問題」

国内外の難民問題をたくさんの方に知っていただくことを目的に、難民事業本部関西支部、神戸 YMCA、日本国際連合協会兵庫県本部と共催し、セミナー「わたしたちの難民問題」を開催しました。難民本人と支援者の方から報道であまり報じられていないお話を聞くことができる貴重な機会だったため、高校生を含め定員を上回る参加者がありました。

難民問題への関心の高さを実感するセミナーとなりました。



▲第3回セミナー 「ドイツの難民受け入れ」の様子

第1回…「ミャンマー難民は今」10月25日(水)

講師：宇田有三(フォトジャーナリスト)

第2回…「南スーダン難民の支援活動」11月7日(火)

講師：大井光一(ワールド・ビジョン・ジャパン 緊急人道支援課)

第3回…「ドイツの難民受け入れ」11月13日(月)

講師：久保山亮(専修大学兼任講師)

第4回…「ベトナム難民として日本に来て」11月29日(水)

講師：ハ ティ タン ガ(神戸定住外国人支援センター介護福祉士)

第5回…「難民認定申請者の支援活動」12月6日(水)

講師：田中恵子(RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク共同代表)

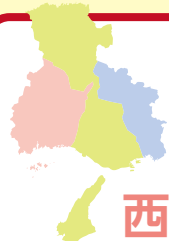
韓国港湾物流高等学校と 尼崎市立尼崎双星高校の学校交流

兵庫県および HIA では、学校交流を通じて海外の生徒に兵庫県の魅力や日本文化を学ぶ機会を提供すると同時に、県内生徒に対して国際理解の促進を図るため、訪問団の受け入れを行っています。昨年度は台湾、香港、タイ、インドとオーストラリア等の生徒達が県内の高校等を訪れ学校交流を行いました。

11月15日(水)には、韓国の港湾物流高校16名(生徒12名、教師等4名)が尼崎市立尼崎双星高等学校を訪問しました。この日は双星高校吹奏楽部の歓迎演奏から始まり、韓国側からはダンスと日本語の歌の披露がありました。レセプション後、商業学科の授業見学(簿記と情報処理)、カルタやけん玉等の日本の伝統的な遊びや部活動(箏曲部、茶道部と書道部)を体験しました。生徒同士で英語を交えて交流し、親交を深める有意義な時間を過ごしました。



◀書道部の作品前で記念撮影



ひょうご国際交流団体連絡協議会

活動紹介

西播磨地域意見交換会

1月30日(火)に西播磨地域意見交換会が開催されました。西播磨では地域会員が関心のあることについて講師を迎え、それぞれの取り組みや課題を話し合うスタイルをとっています。今年度は NPO 法人篠山国際理解センターの足立眞理子事務局長にお越しいただき「在住外国人支援への取り組みと課題」について、日本語学習教室の活動を通じた経験をお話いただき、会員からの質問へアドバイスをいただきました。貴重なご意見に他の地域の会員も含め 33 名の参加者は、それぞれ教室運営のヒントを得ていました。



▲足立事務局長による講演

阪神・丹波地域意見交換会

2月14日(水)に阪神・丹波地域意見交換会が開催されました。各会員から現在注力している事業・課題について報告があった後、ますますニーズが高まる日本語教室について、協会と行政のそれぞれが担うべき役割についてどう棲み分けるか意見が出されました。また、意見交換会に先立ち「ゆげ焙煎所」岡本靖広氏を講師に迎え講演いただきました。一般参加者を含む約60名は、淹れたてのコーヒーを飲みながら「楽しい多文化なコーヒーの世界」について耳を傾けていました。



▲岡本靖広氏による講演

ひょうごの仲間たち

～楽しく学ぶ
親子ベトナム教室～

▼ベトナム語を勉強する子ども達！～難しい発音に挑戦！



▼ボランティアさんが分かりやすく
日本語を教えてください



HIA が「外国人県民・児童生徒の居場所づくり事業」により支援している団体である「楽しく学ぶ親子ベトナム教室」取材しました。

毎週日曜日、二葉地域福祉センターからは子ども達が元気にベトナム語を学ぶ声が聞こえてきます。代表のオアンさんは、平成 27 年の 4 月に親子ベトナム教室をスタートしました。日本で生まれ育った子ども達に両親の母語であるベトナム語やベトナムの文化や習慣を知って欲しいという思いからです。親子で教室にやってきて、お父さんお母さんはボランティアさんから日本語を学び、子ども達はオアンさんやそのご家族から母語であるベトナム語を学んでいます。訪ねた日は、子ども達が大きな教室で、お父さんお母さんは2つの部屋に分かれて勉強していました。休み時間になると、お母さんのところへ駆け寄る子どももいて、安心できる環境がわかる一場面を垣間見ることができました。

子どものクラスでは、歌やゲームを取り入れた楽しく学べる工夫がされていました。子ども達は本当に元気！ベトナム語で歌を披露してくれた子もいました。

ベトナムからの留学生の増加に伴い、県内にもベトナムの方が増えていきます。オアンさんは、子ども達が自分たちのルーツであるベトナムの言葉を学び、将来両国の架け橋になってくれれば、との思いを語ってくれました。

ベトナムと日本、 二国間の将来を見据えて



▲みんなで紅葉狩り！



▲代表の
ブイティ
オアンさん

地域のみなさんやボランティアさんに支えられている親子ベトナム教室。ベトナム語を学びたい日本人も希望があれば、受け入れているそうです。これからも両国の将来を見据えたオアンさんの活動は、さらに広がっていくことでしょう。

「交流の集い2018」を開催しました!

3月17日(土)に神戸倶楽部に「交流の集い 2018」を開催しました。各国の領事館や外国人コミュニティ、国際交流団体の関係者を含む約150人が参加し、国際色豊かな華やかな会となりました。

県政150周年の記念の年として祝賀ムードの中、HIA 友の会会長 前田氏の開会挨拶に続きモンゴル総領事の乾杯発声後は、エピ・エスパンサさんによるジャズ歌唱、そしてサイモン・イェイツ & ザ・デルージョンズ・オブ・グランドデュアー バンドによる人気曲カバー演奏の披露がありました。迫力のあるステージで、乗りの良い曲に合わせて観客が踊りだす場面もありました。

会の終盤には、神戸華僑総会舞獅隊が登場。獅子が機敏な動きで各テーブルを練り歩き、参加者の頭を噛むパフォーマンスに会場は一気に盛り上がりました。

閉会にあたっては、HIA 金澤理事長から県民一人ひとりが国際交流の場で活躍することをお願いし、大盛会となった集いを締めくくりました。



▲エピさんの歌に合わせて踊る様子



▲サイモンさんのバンド演奏



▲和やかな歓談の様子



▲井戸知事による来賓挨拶



▲迫力のある舞獅隊の演技

海外事務所便り

西オーストラリア州から訪問団がやってきました!

11月6日(月)~18日(土)、西オーストラリア州兵庫県文化交流センター(兵庫県パース事務所)が主催する「ひょうご・西日本ツアー」参加者が兵庫県を訪問しました。

同ツアーは4年前にも実施され、好評を博したため、再び計画されました。前回に引き続き、2回目の参加となる方も複数おられ、「兵庫ファン」の増加を実感しました。

参加者は県内様々な地域を訪問しました。神戸では酒心館で日本酒造りの見学および試飲。姫路城では歴史に触れ、僧侶の案内で圓教寺を見学。三木ではマイナيفを作り地元の包丁を購入。丹波では兵庫陶芸美術館や立杭・陶の郷を見学。淡路ではうず潮に感動し、人形浄瑠璃を鑑賞。有馬温泉と城崎温泉で旅の疲れを癒すなど、旧五国全地域で特色ある盛りだくさんなアクティビティを堪能しました。



▲トライアルウィークの生徒と一緒に酒心館を案内しました

2日間の自由時間には、希望者がホームステイの体験を行いました。各家庭で日本の日常生活を経験し、県民とのふれあいを楽しみました。ホストファミリーとの別れ際には今後も連絡を取り合い、再会することを約束していました。ホームステイ後は、参加者同士もそれぞれの体験を楽しそうに共有していました。

ツアー参加者はもちろん、訪問先やホストファミリーなどツアーに関わった全ての方が、今回体験したことや感じたことを家族・知人に話しみんなで共有することにより、更に姉妹州との絆が深まり、交流が広がっていくことを期待します。



▲三木の包丁購入中



▲ツアー参加者の皆さんが御礼の写真を送ってくれました

「にっぽんー大使たちの視線 2017」 写真展とセミナー

駐日の各国外交官が独自の視線でとらえた日本の姿を写真芸術を通じて表現する「にっぽんー大使たちの視線 2017」写真展を、12月1日(金)から1月12日(金)までひょうご国際プラザ交流ギャラリーにて開催しました。



▲写真展の様子

開催初日には同写真展の事務局長である安部忍氏が参加作品のテーマや見どころを解説。第20回目を数える今回は「JAPAN-a country of contrasts」をテーマに、公園で遊ぶ子どもたちをシャボン玉を通して撮影した写真や日本らしい風景、何気ない日常の様子など、46カ国70名の外交官が見たにっぽんの魅力が伝わる展示となり、毎年の開催を心待ちにしている来場者で連日賑わいました。



▲安部事務局長による見どころ紹介

HIAの うごき

平成29年度 第3回国際協力入門セミナー

3月3日(土)、セミナー「セルビアとの交流の種を育てる」を、JICA 関西、兵庫 EU 協会、JICA 海外ボランティアひょうご応援団との共催で、三宮研修センターにて開催しました。今回のテーマ国は、あまり知られていないものの日本と関係の深い国、セルビア。第1部では、県立農業高校の生徒からセルビアとの国際交流について、第2部では(公財)ひょうご環境創造協会の中野氏、藤井氏、神田氏の3氏からJICA 草の根技術協力事業プロジェクトについて発表がありました。第3部では、中野氏をモデレーターに、現地とスカイプを繋ぎ、現地事情に詳しい方々(高岡先生(県立農業高等学校)、児島先生(百合学院)、井田氏(共同通信社)、Vesna 研究員(神戸大学))から様々な視点でお話いただきました。セルビアについて多面的に学ぶことができた、内容の濃い、貴重な時間となりました。



▲第3部のトーク・セッション
セルビアをキーワードに多くの人の繋がりを実感しました

平成29年度 兵庫EU協会各国セミナー ～ドイツビジネスセミナー～

3月7日(水)本拠地をドイツに置くペータース法律事務所・所長のヴォルフガング P.J.・ペータース弁護士及びジャパンデスク部長のリヒャルト正光・シャイフェレ弁護士を講師に、スペースアルファ三宮にてセミナーを開催しました。

ペータース弁護士からは、現況として、高い技術力を持つドイツ中小企業の後継者不足の問題、イギリスのEU離脱によりイギリス国内に拠点を持つ企業がドイツへの移転を検討しているといった動きが報告され、ドイツ進出の好機であることや具体的なM&A戦略が紹介されました。シャイフェレ弁護士からは、現地情報・現地法を参照しながらドイツ進出・販売拡大に関する具体的な手続や、EU一般データ保護規則である「GDPR」について説明がありました。参加者はビジネスに直結する情報に、真剣に耳を傾けていました。



▲多くの方に参加いただいたセミナー
セミナー後はネットワークキングのため名刺交換会を開催

HIA イベントカレンダー(予定)

(変更になる場合もありますので、ホームページやメールマガジンで確認してください。)

4月

【募集事業】

・外国人県民対象
日本語講座募集開始
(5月7日開講)

【プラザ図書展示】

・旅行記特集

6月

【募集事業】

・EU セミナー

【イベント】

・ひょうご国際交流
団体連絡協議会総会

【プラザ図書展示】

・アメリカ合衆国

5月

【募集事業】

・すぐに役立つ日本語
講座募集開始
(7月9日開講)
・EU セミナー

【プラザ図書展示】

・世界の博物館

7月

【募集事業】

・兵庫県・ワシントン州
友好提携55周年記念兵庫
県民交流団

【イベント】

・奨学金受給者証交付式

【プラザ図書展示】

・ひょうごの歴史

イベントに参加したい! もっと知りたい!

登録
無料

HIA

ひょうご国際交流
メールマガジン

県内の国際交流(多文化共生・教育・文化)に関する最新イベント等の情報を、
月2回配信! ※多言語での配信あり

検索・登録はココから
<http://www.hyogo-ip.or.jp>

HIA



この広報紙は地球環境保全のため「植物油インキ」を用い、有害物質を排出しない「水なし印刷」、「環境保護印刷」で製作しています。